

WBC による選手の MLB 移籍

WBC as a players' transferring windows to MLB

1K10C063-8 上野 雅之

主査 武藤泰明 先生

副査 間野義之先生

【背景と目的】

第1回、第2回ワールドベースボールクラシック(WBC)に日本は熱狂した。WBCとはメジャーリーグ(MLB)機構とMLB選手会が共同で設立したWBCI主催で、プロ野球選手も含めた代表チームが世界一をかけて争う、国際野球連盟(IBAF)公認の野球の世界一決定戦である。真の世界一を決める大会としてWBCは開催されている。WBCが開催され、活躍した日本選手がMLBに移籍することが多くなっている。そこで、各国のWBC出場選手はWBCの活躍を契機にMLBに移籍しており、MLB機構はWBCをショーケースとして利用しているのではないかという仮説を立てた。この仮説を検証し、MLB機構のWBC開催の真の目的を明らかにしていく。

【方法】

本研究では、主なWBC出場国として、日本、韓国、台湾、ドミニカ共和国、プエルトリコ、メキシコ、カナダ、オーストラリア、イタリア、キューバに限定して検証した。各国の第1回、第2回、WBC出場選手を挙げ、WBCの開催後に自国のリーグからMLBに移籍した選手を調べ、WBC開催後の選手のMLB移籍の傾向を検証した。また、2013年に行われた第3回大会は、大会後の移籍情報が確定していないため、本研究では第1回、第2回大会で検証した。

本研究の展開は第2章でWBCの概要、開催経緯、試合形式、歴代大会結果、代表別通算成績を示した。第3章ではWBCが開催されてからのMLB外国籍選手の割合の変化を示し、第4章では国別WBC出場選手の所属先を示した。最後に第5章で本研究のまとめと今後の課題について述べている。

【結果】

第1回、第2回WBCでは、活躍した選手がMLB移籍しているのは日本、キューバだけの傾向であることが分かった。韓国、台湾、ドミニカ共和国、プエルトリコ、メキシコ、カナダ、オーストラリア、イタリアの選手にこのような傾向はなかった。理由には以下のことが挙げられる。

ドミニカ共和国、プエルトリコ、メキシコをはじめとするラテンアメリカの国々には、MLBと同時期に開催さ

れるプロリーグが存在するが、それぞれのチームはMLB各球団の傘下に入っている。

カナダのプロリーグやプロチームは、アメリカマイナーリーグや独立リーグのなかに組み込まれている。また、1991年からカナダもMLBドラフトに組み込まれた。

オーストラリアのプロリーグは、MLBやNPBとは大きく規模が異なり、有能な選手は若くから海外のリーグで活躍する選手が多い。

イタリアはWBC代表選手に2重国籍の選手や、幼少期に移民として米国にきた選手が非常に多く、WBC代表選手は、すでにMLB所属の選手が多かった。

韓国と台湾に対して、MLBは最高級素材のアマチュア選手の獲得に力を入れており、優秀な選手はアマチュアからMLBの傘下に入る。上記の各国はこのような理由から、WBCを契機にMLBに移籍する選手は存在しなかった。

ラテンアメリカの国々のなかでも、キューバは状況が異なる。キューバでは国の事情からMLB入りは非常に難しいが、WBC出場選手が亡命してMLB入りする例がある。

日本に対して、MLBは日本プロ野球(NPB)から選手を獲得する場合、MLBでプレーする意思のある選手ですぐにMLBで一流のプレーヤーとして活躍できる能力を持った選手を引き抜くケースが多い。MLBは日本選手の評価をWBCを利用して行い、選手を獲得しているのだ。

【考察】

本研究を通して、WBCによる選手のMLB移籍は日本選手、キューバ選手だけの傾向であることが分かった。日本、キューバ以外の国々は自国のプロリーグの状況やMLBのドラフト制度によって、有能な選手がすでにMLB傘下に所属しているため、WBCによる選手のMLB移籍という傾向は見られなかった。したがって、MLB球団はWBCを日本選手、キューバ選手の評価の場として利用していると言える。普段チェックできない日本人選手、キューバ選手がMLB選手を中心とした各国代表と試合をするというWBCは、MLBスカウトにとっては絶好の場なのである。キューバは国の事情から獲得状況が不安定であることを考えるとMLBにとって、WBC開催の真の目的は日本選手のショーケースなのだ。